

外国語科における概要・要点を掴み、表現するための授業展開のあり方

ータブレット端末を用いた思考ツールの活用を通してー

教科研究センター 小中学校教科研究課

佐藤義信

外国語科では、コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えを形成し、表現する過程で、児童・生徒の思考力・判断力・表現力を養うことが重要である。聞くこと、読むことを通して得た情報を整理し、その情報を基に話したり書いたりするような言語活動を行う際、思考ツールを活用することが有効な手立てになると考え、思考ツールを用いた授業展開の方法を研究した。また、タブレット端末を活用して表現方法を多様化させる方法や「話すこと」に関する小・中学校を通じた課題についても考察した。

**<キーワード> 思考ツール Yチャート 座標軸 フィッシュボーン スターダイアグラム 動画撮影
翻訳アプリケーション 小中連携**

I はじめに

タブレット端末の活用が進んだことで、多様な方法でコミュニケーションを行うことが可能となった。コミュニケーション能力を育成するためには、相手の立場や状況を考慮し、どうすれば自分の伝えたいことが正しく伝わるかを考えることが求められる。外国語科においては、目的、場面、状況に応じて、コミュニケーションの見通しを立て、情報を整理して自分の伝えたいことを表現する言語活動を継続的に実践していくことが重要である。そのために、授業では、教科書の内容を聞いたり読んだりして得た情報を整理し、自分の伝えたいことを話したり書いたりする技能統合的な言語活動を行う必要がある。その際、情報を整理し、自分の伝えたいことを論理的に表現する手立てとして思考ツールを用いることは、児童・生徒にとって有効であると考えた。

そこで、教室内での発表ややりとりだけでなく、様々な方法で言語活動を行う中で、自分の意見や考えを論理的に表現する手立てとなる思考ツールの効果について研究することにした。

II 研究の目的

本稿では、以下の三点について、その効果を検証する。

1 情報の整理および自分の考えを表現するための思考ツールの活用とその効果検証

思考ツールを用いて情報を整理し、自分の考えを表現していく活動を行い、思考ツールの活用は、児童・生徒が英語で自分の意見や考えを論理的に表現するうえで効果的であったかを検証する。

2 児童・生徒の意欲を高める上でのタブレット端末の活用とその効果検証

(1) タブレット端末を用いた言語活動の設定の工夫

タブレット端末を用いた活動を取り入れ、言語活動の目的や場面、状況に変化を加えることは、児童・生徒の表現意欲を高めるうえで有効なのではないかと考え、その効果を検証する。

(2) 個別練習への活用

英語で表現するうえで、発音や話し方などの技能を高めることは重要であるが、今まで個別練習に時間を十分にとることができないという課題があった。しかし、1人1台のタブレット端末の活用により、自分の発表の様子を録画して振り返ったり、発音を確認したりすることが容易に行うことができるようになった。そこでタブレット端末を活用して自分の発音を振り返り、個別に練習することは、児童・生徒の技能と表現

意欲を高めることにつながると考え、その効果を検証する。

3 小中連携を通じて、相手を意識したコミュニケーションを行う際の支援とその効果検証

「話すこと」において、相手を意識してコミュニケーションを行うには、小・中学校を通じて、態度や技能両面で継続的に育成することが必要ではないかと考えた。そこで、コミュニケーションにおける四つのポイント（目を合わせて伝える、間を取って伝える、はっきりとした声で伝える、やりとりを交えて伝える）を設定し支援することが、児童・生徒の表現力の向上につながると考え、その効果を検証する。

Ⅲ 研究の方法

1 思考ツールを活用して教科書の情報を整理し、自分の意見や考えを論理的に表現する言語活動の実践

小学校では、思考ツールを用いて情報を整理し、自分の伝えたいことを発表する言語活動を行い、思考ツールを活用したことが、児童・生徒が表現するうえで有効であったかを、児童・生徒の発表内容やアンケート調査の結果を通じて考察した。

中学校では、単元のまとめとして、既習の学習内容を、思考ツールを用いて個人またはペアで整理した。その手順を活かして、自分の意見や考えをまとめ、表現する活動を行った。思考ツールを活用したことが、生徒が自分の伝えたいことを論理的に表現するうえで有効であったかを、児童・生徒の発表内容やアンケート調査の結果を通じて考察した。

2 タブレット端末を用いた言語活動の実践

実践では、タブレット端末を用いることで、プレゼンテーション資料の作成をはじめ、動画の作成や自分の音声データ付スライドショーの作成など、言語活動の場面や状況に変化を加えた。また、オンライン会議システムを利用し、初めて会う人への発表などを行った。このように、タブレット端末を用いて言語活動を行ったことが、生徒の表現意欲や言語の使用にどのような影響を与えたかを、児童生徒の発表内容やアンケート調査の結果を通じて考察した。

3 目的に応じて発表したり、やり取りしたりするための技能や態度の育成を目指した実践

発表の前に、練習の時間を設け、発表のポイントとして四つの視点（目を合わせる、間を取って伝える、はっきりとした声で伝える、やり取りを交えて伝える）を提示した。発表のポイントを意識したことが発表でどのように効果があったかをアンケート調査の結果を通じて考察した。

Ⅳ 研究の概要

1 研究協力校について

研究の実践にあたり、小・中学校の連携を図り、児童・生徒の変容を検証できるよう、越前町内の小学校および中学校を研究協力校として依頼した。

研究1年目には、越前町立城崎小学校の第5学年および第6学年の児童を対象に実践した。また、中学校では越前中学校の第1学年の生徒を対象に実践した。

研究2年目には、城崎小学校の第6学年を対象に実践を継続し、1年目からの変容を検証した。また、同地区の四ヶ浦小学校第6学年の児童を対象に同じ実践を行い、オンライン会議システムで発表し合う実践を行った。越前中学校では、第2学年への実践を継続し、1年目からの変容を検証した。また、第1学年にも実践し、城崎小学校から越前中学校に進学した生徒の変容を検証した。

2 実践の概要

(1)～(4)では、思考ツールを用いた言語活動の実践と、タブレット端末を用いて発表方法を工夫して行った実践とを合わせて報告する。(5)では、言語活動を行う上で、特に発表における基本的態度や技能の育成

を目指して実践したことについて報告する。

(1) 小学校での実践の概要

小学校では、以下の四つの言語活動を行った。いずれも伝えたい情報を整理して発表することを目的とした。その際、発表内容と思考ツールの特性を考えて、使用する思考ツールを選定した。また、発表する対象や方法を工夫することで、児童が表現方法を考えて発表できるようにした。(図1～4参照)

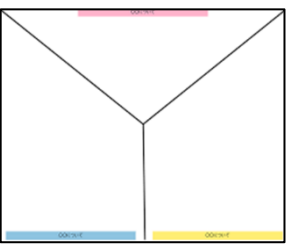
実践時期	令和3年9月	対象学年	城崎小学校第5学年
単元名	New Horizon Elementary5 Unit4 He can bake bread well.		
活動の目標	友達が知らない教員の魅力を伝えるために、教員のことを紹介することができる。		
用いた思考ツールと具体的な活用方法	Yチャート		
			①教員について紹介したい項目を決める。 ②項目に合わせて、紹介したい内容を考える。 ③内容のつながりを考えて、情報を選択する。
発表方法	教員に関する写真を見せながら、1人ずつ順番に発表する。		
指導計画	第1・2時	地域の身近な人についてのやり取りを聞き、おおよその内容を理解する。	
	第3・4時	教科書の登場人物について聞き取ったり、友達とやり取りしたりする。	
	第5・6時	城崎小学校の教員について紹介したい内容を考え、情報を整理する。	
	第7・8時	他の児童に、小学校の教員を紹介する。	

図1 実践1の概要

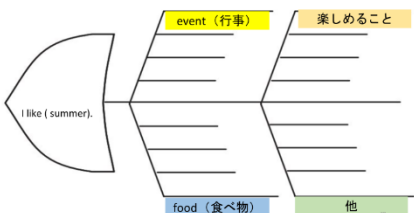
実践時期	令和4年1月	対象学年	城崎小学校第5学年
単元名	New Horizon Elementary5 Unit7 Welcome to Japan.		
活動の目標	越前中学校のALTに日本の四季のよさを伝えるために、自分の好きな季節について、やり取りを交えて伝えることができる。		
用いた思考ツールと具体的な活用方法	フィッシュボーン		
			①項目ごとに伝えたい内容を考え、情報を整理する。 ②タブレット端末を用いて、思考ツールに紹介したい情報に関する写真やイラストを貼り付ける。
発表方法	ALTとオンライン会議システムでつないで、やり取りを交えながら発表する。		
指導計画	第1・2時	日本の四季や文化についてのやり取りを聞き、おおよその内容を理解する。	
	第3・4時	日本の遊びや年中行事について聞き取ったり、友達とやり取りしたりする。	
	第5・6時	ALTのメッセージを読み、自分が好きな季節を紹介する内容を考える。	
	第7・8時	ALTとやり取りしながら、自分の好きな季節を伝える。	

図2 実践2の概要

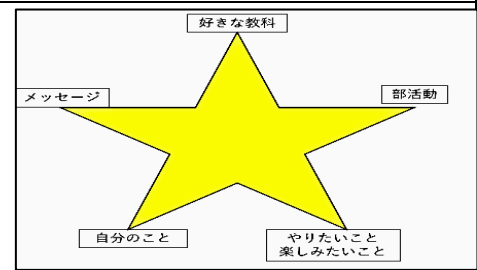
実践時期	令和4年2月	対象学年	城崎小学校第6学年
単元名	New Horizon Elementary5 Unit8 My Future, My Dream		
活動の目標	越前中学校英語の教員に、自分のことを知ってもらうために、中学校で入部したい部活動ややりたいことを伝えることができる。		
用いた思考ツールと具体的な活用方法	<p style="text-align: center;">スターダイアグラム</p>  <p>①項目ごとに伝えたい内容を考え、情報を整理する。 ②思考ツールに紹介したい情報に関するイラスト等を描く。</p>		
発表方法	思考ツールを見せながら、全員の発表をビデオメッセージで伝える。		
指導計画	第1・2時	教科書の内容を聞き、中学校生活の概要を理解する。	
	第3・4時	中学校生活で楽しみなことなどについて生徒同士でやり取りをする。	
	第5・6時	中学校の教員からのメッセージを聞き、中学校でがんばりたいことなどについて、伝えたい内容を考える。	
	第7・8時	中学校の教員に向けてのメッセージを発表し、ビデオで撮影する。	

図3 実践3の概要

実践時期	令和4年7月	対象学年	城崎小学校第6学年 四ヶ浦小学校第6学年
単元名	New Horizon Elementary6 Unit3 Let's go to Italy		
活動の目標	他の小学校の友達に自分の行きたい国についてよく知ってもらうために、そこでできることやよいところなどを伝え合うことができる。		
用いた思考ツールと具体的な活用方法	<p style="text-align: center;">題材に合わせて作成した図</p> <p style="text-align: center;">イタリアのことを例に紹介して見よう</p>  <p>①項目ごとに伝えたい内容を考え、情報を整理する。 ②介したい情報に関する写真等を思考ツールに貼り付ける。 ③タブレット端末を用いて、紹介する。</p>		
発表方法	オンライン会議システムを用いて、タブレット端末で思考ツールを見せながら発表し合う。		
指導計画	第1・2時	教科書の内容を聞き、世界の有名な場所や食べ物について理解する。	
	第3・4時	世界の国と有名な食べ物について、生徒同士で伝え合う。	
	第5・6時	自分が紹介したい国について、伝えたい情報を整理する。	
	第7・8時	小学校同士をオンライン会議システムでつなぎ、自分が行きたい国について、そこでできることやよいところなどを伝え合う。	

図4 実践4の概要

(2) 小学校での思考ツールを用いた言語活動の授業展開

小学校では、主に第5時～8時の活動において、五つの場面を想定し、授業を展開した。

- ① 活動の目的を確認する場面
- ② 英語でやり取りをしながら、思考ツールを用いて情報を整理する場面
- ③ 思考ツールを用いて、自分が伝えたい情報を整理する場面
- ④ 目的に応じて伝えるために個人で練習する場面
- ⑤ 実際に発表する場面

図5 小学校における思考ツールを用いた授業展開の流れ

以下に、それぞれの場面での工夫を述べる。

① 活動の目的を確認する場面

城崎小学校では、初めて会う人に対して、相手の状況や立場を踏まえ、自分の伝えたいことを表現する言語活動になるように、場面設定を工夫した。

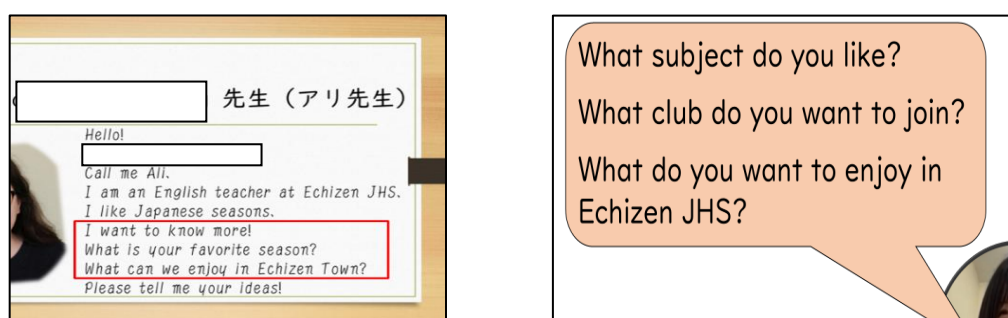


図6 越前中学校の教員やALTからのメッセージを聞き、活動の目的を確認する（左：実践2 右：実践3）

② 英語でやり取りをしながら、思考ツールを用いて情報を整理する場面

活動の目的を確認した後で、教員と英語でのやり取りを通して思考ツールを使った情報の整理の方法を提示した。



図7 教員やALTとのやり取りを通して思考ツールに情報を整理する（左：実践2 右：実践4）

③ 思考ツールを用いて、自分が伝えたい情報を整理する場面

思考ツールを用いてまとめる方法が分かったら、実際に自分が伝えたい内容について思考ツールにまとめた。この時、文字を直接思考ツールに打ち込もうとすると、児童は単語のスペリング等が気になってしまい、内容を考えることに集中できなくなる様子が見られた。そこで、実践2からは、伝えたい情報の写真やイラストを貼り付けることにした。児童は、単語や表現のスペリングは気にせず、英語の音声表現のみに集中できるようになった。また、写真やイラストはそのまま表示したことで、発表内容が伝わりやすくなった。写真やイラスト提示する順番等を考えることで

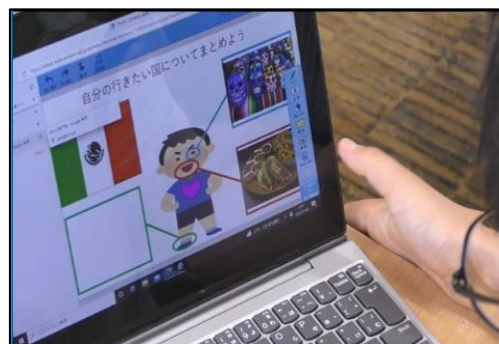


図8 写真等を思考ツールに貼り付ける（実践4）

児童はつながりやまとまりを意識でき、原稿に頼らず、写真やイラストから発表内容を考えて表現する様子も見られた。

④ 目的に応じて伝えるために個人で練習する場面

実践1以外はすべてオンライン会議システムで発表したり、タブレット端末を使用して録画したりした。対面での発表に比べ、はっきりと話すこと、相手の理解を確認しながら進めること、間をとって話すことなど、相手を意識した発表を行う必要があった。そこで、客観的に確認しながら練習を行った。特に**実践3**では、自宅で練習した様子を録画し、翌日学校で確認し、練習する活動を行った。

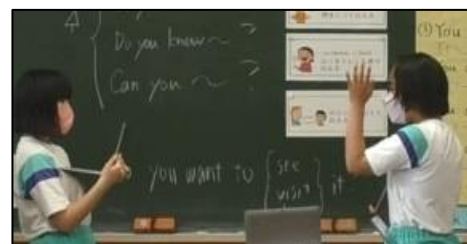


図9 発表をお互いに録画する(実践4)

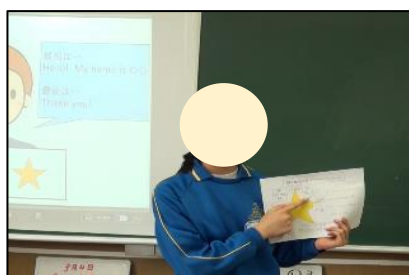
⑤ 実際に発表する場面

発表の際、児童は、伝えたいことが聞き手にうまく伝わるように発表することを心がけた。また、目を合わせたり、写真やイラストなどを指で示したりしながら、発表する様子が見られた。実践2や実践4では、質問を投げかけ、相手の反応を見ながら発表することを意識して取り組み、発表内容に興味をもってもらえるように取り組んだ。



My teacher is Mr. ○○.
Mr. ○○ is a math teacher.
Mr. ○○ can teach volleyball.
Mr. ○○ can ...sports. Mr. ○○ can't run.
Mr. ○○ likes watching sports.

図10 実際の発表場面と発表内容(実践1)



I like art, but I don't like math.
I want to join the table tennis team.
I want to enjoy the sports festival.
I'm good at piano.
Do you like piano?

図11 実際の発表場面と発表内容(実践3)



I want to go to Spain.
Winter in Spain is beautiful.
You can eat paella. Paella is スペイン風炊き込みご飯.
You can visit Sagrada Familia .
You can buy chocolate. Chocolate is sweet.
Do you like chocolate? (Yes!) Let's go to Spain!

図12 実際の発表場面と発表内容(実践4) ※写真はオンラインでの発表画面

(3) 中学校での実践の概要

中学校では、主に単元のまとめの活動として、四つの実践を行った（図 13～16 参照）。特に教科書を読んで得られた情報を思考ツールを用いて整理した後、同じ方法で自分の伝えたいことをまとめ、表現するという流れで各実践に取り組んだ。その際、タブレット端末を用いて修正や情報の入れ替え、ペアやグループでの共有ができるようにした。

実践時期	令和 3 年 10 月	対象学年	越前中学校第 1 学年
単元名	New Horizon1 Unit6 A Speech about My Brother		
活動の目標	教科書の登場人物の魅力がよく伝わるように、情報を整理して紹介することができる。		
用いた思考ツールと具体的な活用方法	<p style="text-align: center;">座標軸</p> <p>①人物についての情報を抜き出し、タブレット端末を使って思考ツールに書き出す。 ②共同編集をして情報をペアで共有する。 ③座標軸に合わせて情報を分類し、抽出した情報を線で結び、つながりのある内容にする。</p>		
発表形態	整理した情報を基に、ペアで発表し合う		
指導計画	第 1・2 時	教科書を読み、登場人物について理解する。	
	第 3・4 時	教科書の続きを読み、登場人物の特徴を理解する。身近な人について紹介する。	
	第 5・6 時	教科書の続きを読み、登場人物についてやり取りする。身近な人について、やり取りしたり、たずね合ったりする。	
	第 7・8 時	登場人物の特徴を整理し、登場人物の魅力が伝わるように、紹介する内容を考え、伝え合う。	

図 13 実践 1 の概要

実践時期	令和 3 年 11 月	対象学年	越前中学校第 1 学年
単元名	New Horizon1 Unit8 A Surprise Party		
活動の目標	教科書の人物になったつもりで、1 日の出来事を紹介する文章を書くことができる。		
用いた思考ツールと具体的な活用方法	<p style="text-align: center;">ステップチャート</p> <p>①登場人物に起こった出来事やその時の気持ちを、順番に思考ツールに書き込む。 ②思考ツールに書いた情報を基に、1 日の出来事を紹介する英文を作成する。</p>		
発表形態	作成した紹介文に写真やイラストを加えたスライドを作成し、生徒同士で読み合う。		
指導計画	第 1・2 時	教科書を読み、登場人物が取り組んでいることを理解する。	
	第 3・4 時	教科書を読み、登場人物について、やり取りする。	
	第 5・6 時	登場人物に起こった出来事を整理し、1 日の出来事を伝える紹介文を書く。	

図 14 実践 2 の概要

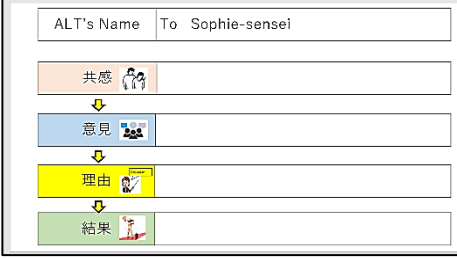
実践時期	令和 4 年 9 月	対象学年	越前中学校第 2 学年
単元名	New Horizon2 Unit4 Homestay in the United States		
活動の目標	ALT が日本で困っていることに対して、アドバイスを考えて伝えることができる。		
用いた思考ツールと具体的な活用方法	Problem – solving - organizer 		①教科書の内容を振り返り、ホームステイ中に起こる問題とその解決策を思考ツールにまとめる。 ②思考ツールに合わせて ALT が困っていることに対する解決策や見通しを加えて、伝えたい情報を整理する。
	発表形態	タブレット端末を用いて、アドバイスを伝えるためのメッセージ動画を撮影する。	
指導計画	第 1・2 時	教科書を読み、ホームステイのルールについて理解する。	
	第 3・4 時	教科書を読み、ホームステイ中に起こったことを理解する。	
	第 5・6 時	教科書を読み、ホームステイにおける大事な考え方を理解する。	
	第 7・8 時	AIT が困っていることを聞き、アドバイスを伝えるための動画を作成する。	

図 15 実践 3 の概要

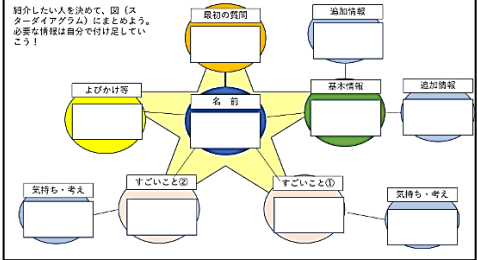
実践時期	令和 4 年 10 月	対象学年	越前中学校第 1 学年
単元名	New Horizon1 Unit6 A Speech about My Brother		
活動の目標	ALT に日本のことを知ってもらうために、世界で活躍する日本人を紹介することができる。		
用いた思考ツールと具体的な活用方法	スターダイアグラム 		①項目ごとに伝えたい内容を考え、情報を整理する。 ②自分が伝えたい内容に合わせて項目を追加しながら、情報をまとめる。
	発表形態	タブレット端末を用いて録音した音声データを貼り付けたスライドショーを作成する。	
指導計画	第 1・2 時	教科書を読み、登場人物について理解する。身近な人について紹介する。	
	第 3・4 時	教科書の続きを読み、登場人物の特徴を理解する。身近な人について、やり取りしたり、たずね合ったりする。	
	第 5・6 時	教科書の続きを読み、登場人物についてやり取りする。	
	第 7・8 時	ALT に、世界で活躍している日本人を紹介するためのスライドを作成する。	

図 16 実践 4 の概要

(4) 中学校における思考ツールを用いた言語活動の展開

中学校では、主に四つの場面を想定して授業を展開した。

- ① 単元で学習した情報を、思考ツールを用いて整理する場面
- ② 自分が伝えたい情報を整理する中で、内容のつながりやまとまりを考える場面
- ③ 目的に応じて伝えるために練習する場面
- ④ 実際に発表する場面

図 17 中学校における思考ツールを用いた授業展開の流れ

以下に、それぞれの場面で行った工夫を述べる。

① 教科書の情報を思考ツールを用いて整理する場面

中学校では、教科書で学習したことを、目的に応じて理解するために思考ツールを用いた。整理すべき情報量が多いため、タブレット端末に思考ツールの画像を取り込み、タブレット端末上で文字の入力を行い、変更や修正が効率よくできるようにした。特に実践 1 では、共同編集機能を使用して情報を共有することで、表現する内容が増えるようにした。



図 18 タブレット端末に情報を入力する（実践 1）

② 自分が伝えたい情報を整理する中で、内容のつながりやまとまりを考える場面

生徒が自分の伝えたい内容を考える際、情報の順番やつながりを考え、目的に応じて情報を取捨選択することができるようにした。実践 1 では、「座標軸」という思考ツールの特性を生かし、情報を価値づけし、取捨選択できるようにした。実践 2 や実践 4 では、必要に応じて情報を追加するように促した。実践 3 では、聞き手を意識して、どのような順番で話を進めるかを配慮しながら、伝える内容の順番を考えるように促した。

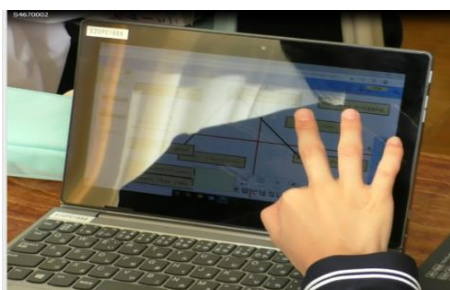


図 19 情報を線で結び、つながりを考える（実践 1）

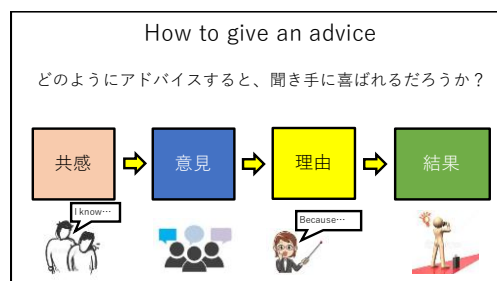


図 20 聞き手を意識して話す順番を考える（実践 3）

③ 目的に応じて伝えるために個別に練習する場面

中学校では、表現に必要な語彙の発音を教員や ALT にたずねる姿が見られる。英文の量も多いため、聞き手によく伝わるようにするには、発音やイントネーション、話すスピードなどに気を配る必要がある。そのため、一定の練習時間と個別の支援が必要になるが、十分時間をかけることができない場合があった。そこで実践 4 では、翻訳アプリケーションの音声認識機能を活用し、語彙の発音を確認したり、自分が読み上げた英語が正しく認識されるかを確認したりすることで、正しく発音できているかを確認する時間を確保し、発表に臨むようにした。

④ 目的に応じて発表する場面

実践 3 および実践 4 は ALT に対して自分が伝えたいことを伝える活動を行った。その際、一人一人が ALT と話す時間を確保するのが難しいことが予想できたため、動画や音声データ付きのファイルを作成することにした。発表をデジタル化することで、いつでも確認できること、また生徒同士で発表を見合い、表現方法などを学び合うことにつながると考えた。録画や録音については、授業時間だけでなく、家庭学習として取

り組むことができるという点でも有効だと考えた。



図 21 生徒が作成した紹介文の内容 (実践 2)

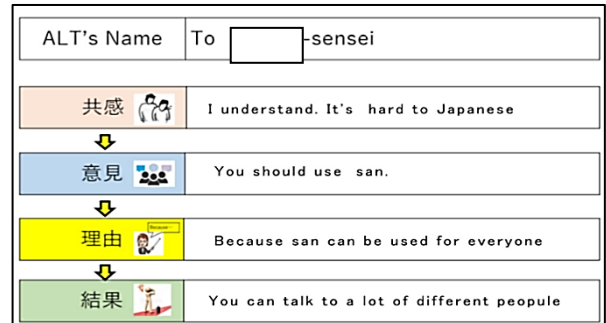


図 22 生徒が書いたアドバイスの内容 (実践 3)

※英文は生徒の原文のまま

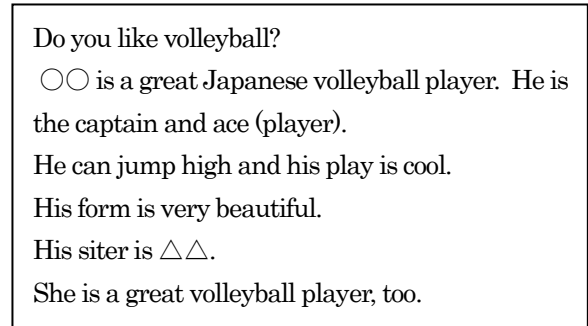
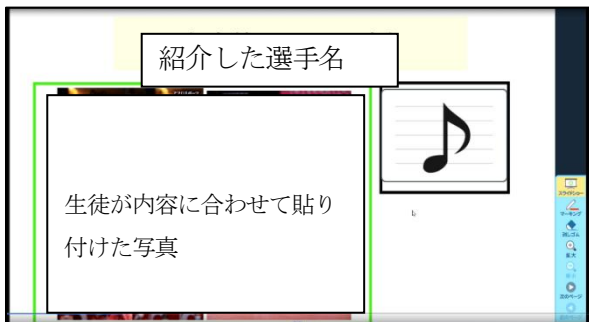


図 23 生徒が作成したスライド (左) と録音した紹介内容 (右) (実践 4)

※「♪」をクリックすると生徒の音声データが流れる

(3) 発表の態度・技能の育成を目指した実践

小・中学校ともに、聞き手に伝えたい内容を伝えるための四つのポイントを提示し、発表の前にポイントを意識して練習する時間を確保した (図 24)。小学校では、タブレット端末を用いて自分の発表の様子を撮影し改善しながら発表を行った。また、発表後は、発表のポイントを意識して発表できたかを振り返り、次の学習につながるようにした。特に小学校の実践 4 では、発表を見合う中で、他の児童の発表を見て気付いたことを記述する児童も見られた。

- ①目を合わせて伝える
- ②間をとって伝える
- ③はっきりとした声で伝える
- ④やり取りを交えて伝える

図 24 聞き手に伝えたい内容をうまく伝えるための四つのポイント

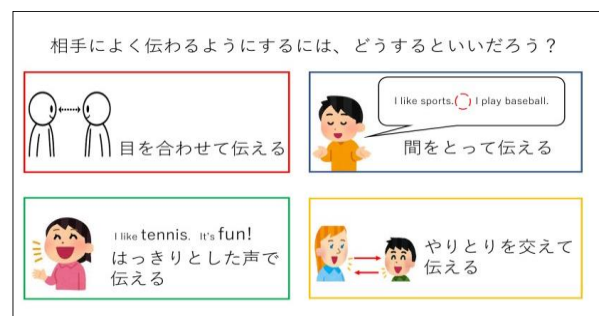


図 25 四つのポイントを示したスライド

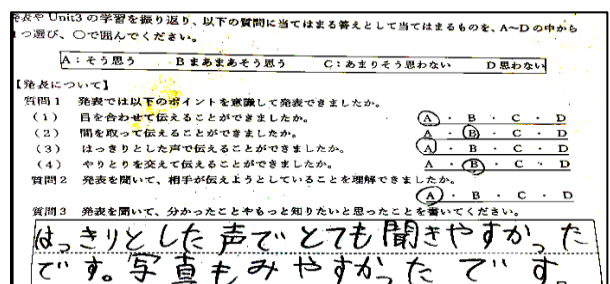
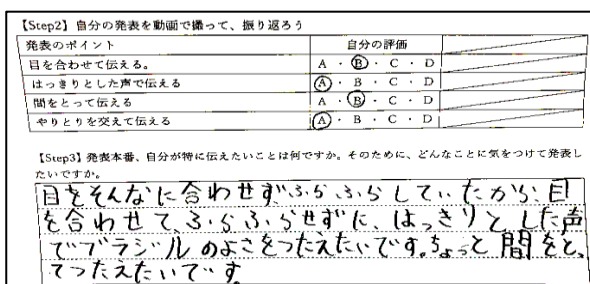


図 26 児童の振り返り (左: 発表前 右: 発表後)

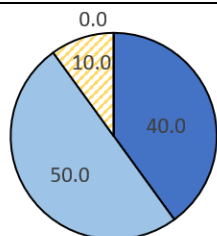
3 結果と考察

(1) 各実践におけるアンケート調査結果

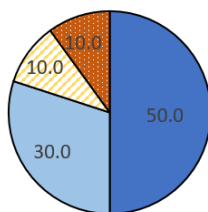
① 言語活動における思考ツールの有用性について

【質問 (小学校)】 ■ そう思う ■ まあまあそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

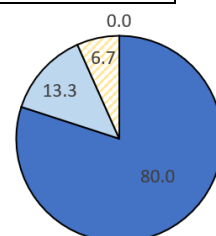
「図 (思考ツール) を使って伝えたいことをまとめたことは、発表の役に立ちましたか。」



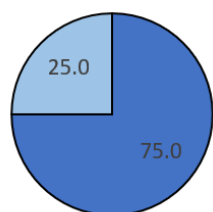
実践 1 (R 3 城崎小 5 年 10 名)



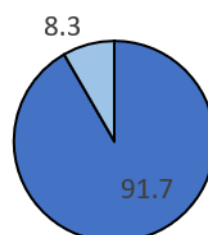
実践 2 (R 3 城崎小 5 年 10 名)



実践 3 (R 3 城崎小 6 年 15 名)



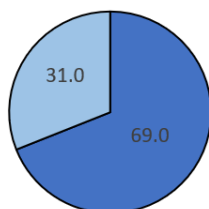
実践 4 (R 4 城崎小 6 年 8 名)



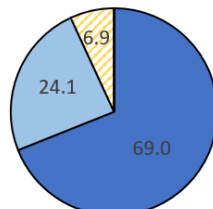
実践 4 (R 4 四ヶ浦小 6 年 12 名)

【質問 (中学校)】 ■ そう思う ■ まあまあそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

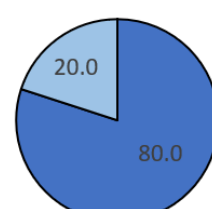
「伝えたい内容と考える際、図 (思考ツール) を使って整理したことは、自分の意見を伝える上で役に立ちましたか。」



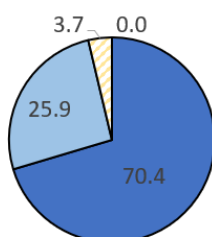
実践 1 (R 3 越前中 1 年 29 名)



実践 2 (R 3 越前中 1 年 29 名)



実践 3 (R 4 越前中 2 年 15 名)



実践 4 (R 4 越前中 1 年 27 名)

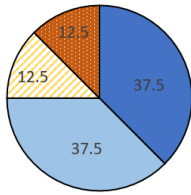
【①のアンケート調査結果】

すべての実践において「そう思う」「まあまあそう思う」と回答した児童の割合は、小学校で 80%以上、中学校では 90%以上であった。

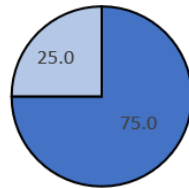
② タブレット端末を活用した発表方法の工夫が児童・生徒の学習意欲に与えた影響について

【質問 (小学校)】 ■ そう思う ■ まあまあそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

「他校の友達に発表したり、他校の友達の発表を聞いたりすることは楽しかったですか。(実践4)」



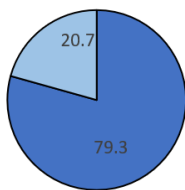
実践4 (R 4城崎小6年8名)



実践4 (R 4四ヶ浦小6年12名)

【質問 (中学校)】 ■ そう思う ■ まあまあそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

「タブレット端末を用いて英語を書いたことは、学習の達成感につながったと思いますか。(実践2)」



実践2 (R 3越前中1年29名)

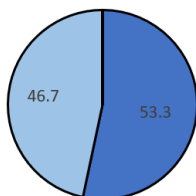
【②のアンケート調査結果】

小学校では、オンラインでの発表に対する肯定的な回答の割合は両校とも75%以上であった。中学校では、タブレット端末を用いて紹介文を作成したことは、すべての生徒が達成感を感じる活動であった。

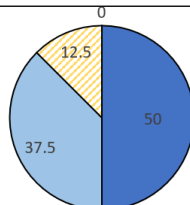
③ タブレット端末を活用して個人練習を行ったことが発表に与えた影響について

【質問 (小学校)】 ■ そう思う ■ まあまあそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

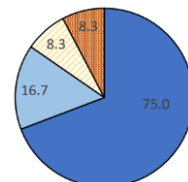
「発表の練習のために、家や学校で動画を撮って、自分の発表の様子を見たことは、自分の発表をよくする上で役に立ちましたか。(実践3、4)」



実践3 (R 3城崎小6年15名)



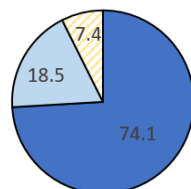
実践4 (R 4城崎小6年8名)



実践4 (R 4四ヶ浦小1年12名)

【質問 (中学校)】 ■ そう思う ■ まあまあそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

「紹介内容を録画する際に、翻訳アプリケーションで自分の発音を確認したことは、学習の役に立ちましたか。(実践4)」



実践4 (R 4越前中1年27名)

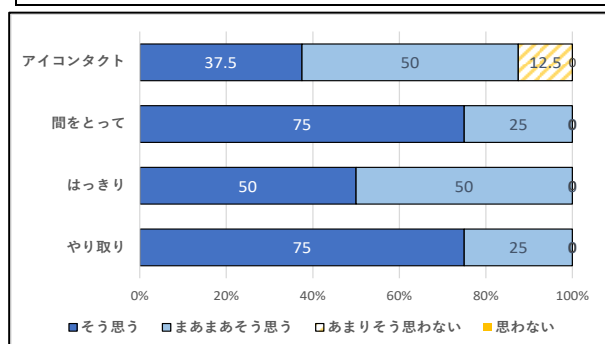
【③のアンケート調査結果】

小学校では、動画を撮影して発表の練習に活用することに肯定的な回答をした割合は、約90%であった。中学校では、自分の発音を確認するために翻訳アプリを活用することに肯定的な回答をした割合は、90%以上であった。

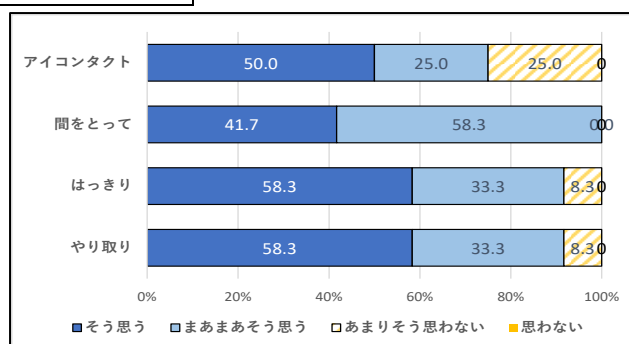
④ 相手を意識した発表態度の育成について

【質問（小学校）】

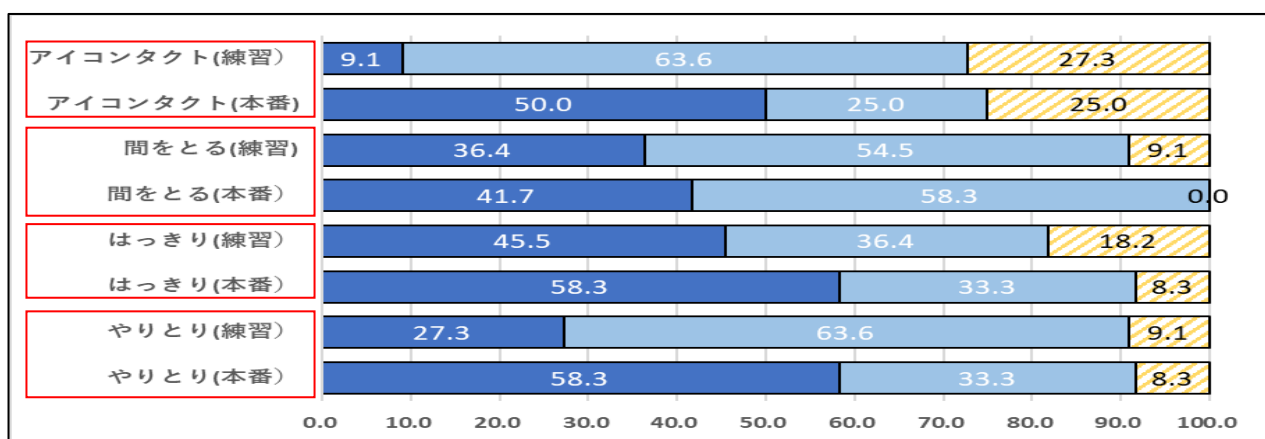
「発表では、以下のポイントを意識して発表できましたか。（実践4）」



実践4 各項目の結果(R4城崎小6年8名)



実践4 各項目の結果 (R4四ヶ浦小6年12名)



実践4 練習後と発表後の結果 (R4四ヶ浦小6年12名)

【④のアンケート調査結果】

- ・「目を合わせて伝える」項目で肯定的に回答している割合は75%であった。それ以外の項目において肯定的に回答している割合は、90%以上であった。
- ・四ヶ浦小学校では、発表前後で同じ質問に対する回答の割合を比較した場合、「そう思う」と回答した児童の割合はどの項目においても高くなった。

(2) 考察

① 思考ツールの活用が児童生徒の言語活動に与える影響

小・中学校での実践後のアンケート結果から、どの実践においても思考ツールが役に立ったと感じた児童・生徒が多かったことがうかがえる（3(1)①参照）。児童・生徒の発表や作成した紹介文などからは、文量が増え、文と文のつながりや発表内容のまとまりがあることを見取ることができた。このことは、情報を整理するという思考ツールの特性が児童・生徒の表現により効果を与えたものだと考えられる。

小学校では、思考ツールの項目に合わせて英語でやり取りしたことで、児童はやり取りの内容をある程度予測しながら教員からの質問に答えることができた。やり取りの中で出てきた情報は黒板などで整理していくことで、やり取りの流れを確認しながら質問に答えることができたのではないかと考えられる。教員は思考ツールの項目に合わせて質問をすることで、動詞や語彙を繰り返し使用することができ、児童は語彙や表現に十分慣れ親しんだ状態で自分の伝えたいことを表現することができたと考えられる（図27）。



T: I want to go to Italy. Do you know about Italy?
(目を指して) What sports can you see in Italy?

S: Baseball?

T: No. You can see soccer games.
(ハートを指さして) It's exciting. Do you like soccer?

S: Yes, I do.

T: Me, too!
(口を指して) What can you eat in Italy?

S: Pizza?

T: That's right. You can eat pizza. Do you like pizza?

S: Yes.

T: Me, too. (ハートを指して) It's delicious!
(足を指して) Where can you go in Italy?

図 27 英語でのやり取り例 ※下線部は、児童が国の紹介をする際に必要となる表現

中学校では、思考ツールを用いて項目ごとに情報を整理したり、順番や因果関係などを意識したりしながら英語を書いたことで、既習の表現を自然と活用する姿が見られた。特に意見や結果などを表すための論理的な表現を用いる姿が見られた。このように、目的や場面、状況に応じて必要な表現を使用することで、表現の用法をより理解し、活用できるようになると考えられる。(図 28)

ALT's Name	To Sophie-sensei
共感	
↓	
意見	
↓	
理由	
↓	
結果	

(共感) I know your feeling. It's very difficult to use Japanese.

(意見) You shouldn't say "Ohayo" to Kocho-sensei.

(理由) Kocho-sensei is great.
So you should say "Ohayo-gozaïmasu."

(結果) If you say "Ohayo" to students, it sounds friendly.

図 28 挨拶の違いが難しいという ALT に、生徒が用いた思考ツールとアドバイスの内容

※下線部は、思考ツールに合わせて活用した既習の表現

これらのことから、実践を通じて検証できた思考ツールの利点は、以下のようにまとめることができる。

- ・項目ごとに伝えたい情報を考えたことで、発表内容や紹介原稿の文量が増えた。
- ・項目ごとに情報を整理したことで、文と文につながりを感じられた。
- ・項目ごとに情報を伝えることができ、まとまりのある発表や紹介をすることができた。
- ・思考ツールを用いたことで、視覚的に情報を提示しながらやり取りをすることができた。やり取りを通して、言語活動に必要な表現を何度も使用し、慣れ親しむことができた。(小学校)
- ・思考ツールを用いて伝える項目や順序、因果関係などを整理することで、既習の表現を活用し、論理的に説明しようとする姿が見られた。(中学校)

② 発表方法を工夫したことが学習意欲に与えた影響と個別学習への波及効果

城崎小学校は単学級であり、同一の児童同士や教師、ALT への発表ややり取りが中心であったため、児童がコミュニケーションの必然性を感じる事が難しい場合もあった。しかし、オンライン会議システムを利用したことで、コミュニケーションの対象が越前中学校の教員、ALT、四ヶ浦小学校の児童等へと広がり、初めて会う人に、自分の伝えたいことを英語で伝えるという場面を設定することができ、よい緊張感をもたらすことができた。オンラインでの発表では、音声聞き取りにくかったり、聞き手の反応が分かりにくかったりすることから、発表中に質問を投げかけ、やり取りを通して相手の理解を把握しようとしていた。実践 2 では、まだ越前町のことをよく知らない ALT のことを考え、越前町でできることを加えて伝えようとする

る児童も見られた。実践4では、四ヶ浦小学校の児童は、自分の調べたことについて城崎小学校の児童がよく知らないであろうと予想し、スペインの食べ物について、よく似た日本の食べ物に例えて紹介しようとするなど、相手の立場や状況を考えて、表現しようとする姿が見られた。

中学校では、タブレット端末を活用して自分の発表を動画や音声データなど、多様な表現方法に取り組んだことで、自分の発話する英語に対する意識が高くなったと感じられる。実践4のアンケート結果では、翻訳アプリケーションを用いて自分の発音を確認したことが役に立ったと回答した生徒は約 90%であった（3(1)③）。活動中、音のつながりに注意する生徒や、アプリケーションの発音を聞いて、繰り返し練習する生徒の姿が見られた。音声や動画はすぐに再生し、うまくできていたかを確認し、改善しようとする姿が見られた。今後、タブレット端末を持ち帰ることで、家庭でも取り組むことができ、練習時間を十分に確保することができると思われる。

③ 発表の態度や能の育成を目指した実践

小学校の実践4のアンケート結果からは、発表のポイントの項目について、よくできたと感じた児童が多かったことがうかがえる（3(1)④）。四ヶ浦小学校では、発表前後の割合の変化に着目すると、「そう思う」と回答した生徒の割合が本番で高くなっており、四つのポイントを提示して練習し、発表したことで、向上につながったのではないかと考える（3(1)④）。

中学校でも、発表の際のポイントについて提示したが、練習時間が十分に取れず、改善のための機会を設けることができなかった。このことから、②で述べたように、タブレット端末を活用し、家庭学習の時間も練習できるよう、生徒の意欲を高めることが大切だと考える。

④ 目的に応じて自分の伝えたいことを整理し、論理的に表現するための言語活動の準備および活動の手順

①～③の考察から、児童・生徒が目的に応じて情報を整理し、自分の伝えたいことを論理的に表現する力を育成するために、言語活動を設定し、実施していくための手順を、以下のようにまとめた。

【準備】 教員は、以下のことを考えながら、言語活動の目的・場面・状況を設定する。	
対 象 (誰に)	学級の児童・教員・ALT・学校外の児童・架空の人物等
内 容 (何を)	人物紹介・物などの紹介・事実・自分の考えや気持ち等
表現・語彙 (どんな表現で)	言語活動に必要な表現や語彙の想定
伝達手段 (どんな手段で)	対面・オンライン・動画・プレゼンテーション・手紙・ポスター等 【タブレット端末の活用】

【活動1】 児童・生徒は、言語活動の目的・場面・状況を確認し、以下のことを考慮しながらコミュニケーションの見通しを立てる。	
聞き手への配慮	相手の立場や状況などを考慮
内容の構成	伝えるべき情報や論理の形式の決定 【思考ツールの活用】
伝達手段に関わる留意事項	伝達手段に応じて留意すべきことの確認

【活動2】 児童・生徒は、英語を聞いたり読んだりすることを通して、コミュニケーションに必要な表現や情報の整理の仕方を理解し、自分の伝えたいことを論理的に伝えるために活用する。	
表現や語彙の確認	英語でのやり取りを通じた表現や語彙を理解
情報の整理・活用	英語でのやり取りや教科書等の読み取りを通じた情報の整理と活用 【思考ツールの活用】

【活動3】 児童・生徒は、言語活動で自分の伝えたいことをよりよく伝えるために個別に練習する。	
発表技能の向上	目的に応じた発表技能の練習および録画による振り返り 【タブレット端末の活用】
音声面の確認	発音や読み方の確認および録音による振り返り 【翻訳アプリケーション等の活用】

V おわりに

本研究では、思考ツールを用いた言語活動を実践したが、聞いたり読んだりして得た情報を、目的や場面、状況などに応じて表現することは、児童・生徒の思考力、判断力、表現力を高めるうえで重要であることを改めて認識した。実践では、使用する思考ツールをあらかじめ準備した状態で言語活動を行ったが、言語活動の目的に応じて、自分で思考ツールを選択できるよう、コミュニケーションの見通しを立てる力を養うことが、思考力・判断力の育成につながると考える。

研究実践を行う中で、児童・生徒が伝える相手を強く意識し、伝えたいという思いが高まると、相手にわかりやすく伝えようと自発的に工夫する姿が見られた。その結果、うまく伝えることができた時は、より一層達成感を味わうことができたのではないかと考える。児童・生徒にとって、コミュニケーションの対象は、コミュニケーションの意欲を高める上でとても重要であり、様々な人とつながることができる今の ICT 環境を活かし、児童・生徒が取り組みたくなる言語活動を設定することが、今まで以上に重要になると感じた。また、表現力を支える基本的な技能として、本研究で提案した発表のポイントは、外国語科に限らず、色々な教科を通して定着を図る必要があると考える。小学校で身につけた発表の技能や態度は、継続的に活用することで伸ばせるものであり、小・中学校が連携して発表の技能や態度を育てていくことが重要である。これからも、今の時代に求められているコミュニケーションの本質を見据え、必要な資質・能力を育てるための言語活動を実践していくことが、外国語に携わる教員の役割だと感じている。

参考文献

- (1) 文部科学省 (2017) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』
- (2) 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』
- (3) 黒上晴夫 (2019) 『ロイロノート・スクール シンキングツールを学ぶ』 株式会社 LoiLo
- (4) Amanda Athuraliya (2021) 『19 Types of Graphic Organizers for Effective Teaching and Learning』
<https://creately.com/guides/types-of-graphic-organizers/>
- (5) 五十川敬子 (2009) 『ナレッジ・フレームワークを使用した英語授業の試み』 立命館大学国際言語文化研究所 紀要 21 巻 2 号教育実践ノート
- (6) 東口貴彰 (2020) 『小学校英語×ICT「楽しい」を引き出す活動アイデア 60』 明治図書出版